

20 家庭は学校、親は最初の先生

【き】 地域のしつけの現状を知りたい

平成15年度に第2期を迎えた、阪神北地域教育推進会議第2小委員会では、親のしつけの重要性を論じ合っていました。議論も大切だが、実際、私たちの地域のしつけの実情はどうなっているのかを調べようということになり、今回の活動につながりました。

【概】 阪神北地域の小中学校にアンケートを実施

平成16年3月に、阪神北地域4市1町、それぞれ1つずつの小中学校に協力をお願いし、小学校4年生から中学3年生の児童生徒及びその保護者各1,500人を対象に家庭教育の重要性と実状を問うアンケート調査を行いました。



活動内容を説明

【成】 子育てにおける親の影響の大きさを知りました

たとえば、子どもへの質問項目である「ほめられてうれしかった人」「しかられて嫌だった人」では、半分くらいが母親であると回答し、父親も含めた両親が4分の3以上を占めていました。このように、子どもに対する両親、特に母親の影響がいかに大きいかということを改めて確認しました。

また、このアンケート結果をどのように生かすかは今後の課題ですが、少なくともアンケートに答えてもらうこと自体が、しつけの重要性を再認識してもらうきっかけになったのだと思っています。

【夢】 これからもしつけの大切さを地域に啓発していきたい

第2小委員会の目的は、家庭の教育力を充実させるため、地域の支援方策を考察することでした。今年度で第2期委員の任期が終了になりますが、今回の取り組みで第2小委員会の委員9人は共通の問題意識と、深い信頼関係で結ばれました。

これからも形を変えて協力し合いながら、「親は生活習慣・マナー・人生に対する態度など、様々なことを教える先生である」という認識をすべての親に持ってもらえるような活動を実践していきたいと思います。

阪神北地域教育推進会議 第2小委員会

代表者氏名:伊藤順一
活動地域:阪神北地域
事務所等:宝塚市御殿山2-1-1
兵庫県教育委員会
阪神北教育事務所内
電話番号:0797-85-9053



ワークショップの成果



プレ調査でアンケートのブラッシュアップ

アンケートを作るに当たり、まずは小委員会のメンバーでどんなことを質問したいかを議論し、素案を作成しました。

それから、平成15年12月に、委員の知人など、100人分の試行調査を実施しました。その人たちに、感想や、ほかにどんな質問があったらいいかなどを聴きながら、アンケート案をより良いものにしていきました。



行政には事前の連絡だけお願いしました

アンケートは、阪神北教育事務所を通じて、各市町の教育委員会に依頼しました。ただ、事務所からはあくまで我々が直接お願いに行くということの連絡だけに留めてもらいました。直接お話しさせていただいた方が私たちの思いがよく伝わると思ったからです。

また、各学校へも委員が改めてお願いに行きました。PTAなどを通じて校長先生と知己の方が多かったので、スムーズに話が進みました。



作業はみんなで役割を分担しました

1,500組の親子のアンケート結果をまとめなければならなかったのも、作業は膨大でした。最終的にパソコンを扱える者がエクセル等でデータ処理をしましたが、たとえばパソコンが苦手な人にはデータ入力をしやすいよう手書きで資料を編集してもらうなど、「みんなで取り組む」ということを大切に、資料を完成させました。

読者の皆さんへのメッセージ

地域のあるいは兵庫の、ひいては日本・世界の未来は次代を担う子どもたちにかかっています。子どもたちが良い生活習慣や社会性、そして自立心を養うためには、学校や公任せにするのではなく、親が親であることを強く意識し、親業をしていかねばならないでしょう。皆さん、しっかり“親”をしましょう！



しつけを考えるワークショップ